

第29回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成25年5月28日（火）
午前13時30分～午後16時15分
- 3 場所 本庁舎東館3階 市民・こども局会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、垣内委員（副議長）、猪口委員、岩森委員、城谷委員、高田委員、野畑委員、林委員、渡辺委員
 - (2) 教育委員会事務局
青少年科学館 山田館長
 - (3) 事務局 市民・こども局市民文化室
北室長、大坪担当課長、石床担当係長、渡邊職員
- 5 議題
 - (1) 平成24年度文化アセスメントのまとめについて
 - (2) 文化芸術振興計画の改定について
 - (3) 平成25年度文化アセスメント対象事業について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題1-1 （青少年科学館）

澤井議長 平成24年度文化アセスメント対象事業のうち、青少年科学館について、山田館長に出席いただいている。まずは、事務局から概要説明後、山田館長からのヒアリングを行いたい。

事務局 <青少年科学館資料についての概要説明>

澤井議長 学芸員は何名配置されているのか。

館長 当館は、自然、天文、科学の3分野を対象としているが、学芸員は、天文の分野で1名配置されているのみである。博物館法においては、館に1名学芸委員が

設置されていれば良く、ジャンルごとの設置は努力義務となっている。ただ、最低限、分野ごとに1名の学芸員が欲しいところではある。

澤井議長
館長

プラネタリウムで生のコンサートを行っているが。

普段と異なる企画や演出で興味を持ってもらい、新たな層に来館してもらえればと考えている。25年度以降も継続し、生演奏だけにこだわるわけではなく、CDや詩の朗読など、色々試みていくことにより、顧客の開拓をはかっていきたい。

高田委員

プラネタリウムの歳入が、当初の見込みの1800万円から2600万円に増えているが、これはなぜか。

館長

以前の実績は、1,000万円を切る歳入であった。リニューアルにあたり、料金を2倍にし、歳入の見込みを1,800万としたが、オープン当初からマスクミに取り上げられる機会が多く、予想を大きく超える結果となった。

高田委員

教育施設として、歳入が全てではないということだが、そういった中で、館としては、収入をどのように考えているのか。

館長

館の一番の目的は、教育普及であり、歳入を第一に考えているわけではない。施設としては、より多くの方々に自然科学等を体験していただき、興味を抱いてもらったり、学んだりする場としてもらいたいということから、プラネタリウム以外の展示については全て無料としている。プラネタリウムの料金については、最低限の維持管理費は、利用していただいた皆様に負担していただくという趣旨である。ただし、プラネタリウムの来館者が増えれば、それだけ多くの方々に、他の展示である自然科学等にも触れていただく機会が増えるものと考えており、観客増への努力を続けていきたい。

垣内委員

職員の人数と構成はどうなっているか。

館長

事務室内は正規職員7人、非常勤5人、管理運営を受託している指定管理者の職員3人、他は指定管理者が業務委託している受付、警備、清掃等の職員である。

垣内委員

学芸員を増やしたいという考え方はあると思うが、一方で、外部の人材を活用していくという考え方はあるのか。

館長

NPO法人との連携で調査研究等を行っている。ただ、職員は学芸職ではないため、指導等が困難な状況である。学芸員とはいかなくても、長期で携われる職員がいれば良いが、人事異動等で経験が蓄積しづらいことが大きな課題である。

垣内委員

市の職員による直営がネックになっているのではないかと。学芸部門も財団等に委託するという考え方はあるのか。

館長

指定管理の場合、5年程度で管理者が変わる可能性がある。そうしたときに、長期計画に基づく調査や研究部分についての引継ぎが非常に困難である。

高田委員

この課題や川崎南部からの来館が少ないといったことは、昨日、今日始まったものではないように思うが。

館長

その時々課題については館の運営に反映するようにして来ているとは思いますが、充分に対応できていない部分があることも事実であり、それら残された課題に向

けてやっていかねばならないと考えている。

垣内委員 館としての喫緊の課題は何であるか。

館長 予算よりも、博物館活動を行える、もしくは興味をもって携われる「人」の確保が一番の課題と考える。

垣内委員 総合管理が25年度から始まったが、これについてのメリットと課題はどう考えるか。

館長 始まったばかりで、まだ目に見えるメリットは出てきていない。ただ、広報の手法等を見ている、官のとはまったく異なる発想で行われており、その効果が現れてくるのではないかと考えている。

垣内委員 アンケートの結果であるが、87%が満足と非常に高い満足度であることが伺える。一方で「とても不満」と答えた方も10名程度おられるが、この内容はこういったものか。

館長 施設・展示等に関する不満というよりは、単発的なトラブルに起因するものがほとんどであった。

猪口委員 アンケートについて、分析までしっかり行っていることはとても良いと思う。ぜひこの結果を運営に反映させていって欲しい。

館長 アンケートは、とっただけで終わらせず、どう分析し、次にどう活かすかを考えて行っている。

澤井議長 それでは、このあたりで山田館長へのヒアリングを終える。事務局は、次回、これらの内容をまとめ、報告書の叩き台を用意するようお願いしたい。

議題1-2 (子どもの音楽活動推進事業)

澤井議長 それでは、資料等について事務局から説明願いたい。

事務局 これまでに委員からいただいている意見等を踏まえ、評価書の叩き台を作成した。また、別紙にて、各委員からの意見も同様にまとめている。これらをもとに、評価書の叩き台について議論いただきたい。また、提言内容や総合評価の内容は、今日の内容を踏まえて次回、事務局で叩き台を用意する。

澤井議長 全体的に事業の体系的によく練られている。ここまでやっていると、絵画などの他ジャンルがどう思うのかは気になるころではある。

野畑委員 工業都市と言われてきた川崎のイメージを変えようと進めてきた取組みが、音楽については成果が出てきている。他の文化面についてももう少し考えていければ。

猪口委員 団体での活動について、色々な面でサポートされているように見える。後は、個人で部活等に所属せずに行っているようなものについて、どれだけ機会等を提供できるか。

澤井議長 子どものための文化芸術事業については、他にどういったものがあるか。

- 事務局 子どものための映像教育等では、希望した学校に出向き、映像の撮影方法等を学び、子どもたちが自分の手で映像作品を作り上げるところまでを実際に体験しながら学習できる。また、美術等については、川崎市美展に中・高生の部がある。
- 林委員 市美展は、実際には参加者が高齢者ばかりという実態がある。美術館に若い人が行かないわけではない。若い人を呼んだり参加してもらうには、それにあった企画をする必要がある。
- 垣内委員 達成度の部分で、参加希望校が全校参加できるようにしたとあるが、市内に何校あり、うち何校が希望したのか。
- 事務局 市内に約113校の小学校があり、うち81校が希望している。希望していない学校については、宮前や麻生などの地理的要因による校が多いと聞いている。会場の分散化等は費用面で困難なことから、中部以北の会場はキャパシティが小さいことがネックとなっている。これらについては、地域に開かれた音楽活動等の事業でカバーされている学校もある。
- 澤井議長 アウトリーチには積極的に取り組んで欲しい。
- 猪口委員 宮前や麻生の父母から参加させて欲しいという意見等はないのか。
- 事務局 教育委員会からは、そういった話は聞いていない。参加については、遠いとしてもPTAからそういった声があがれば、学校ごとに参加について検討をするのではないと思われる。
- 澤井議長 子どもの音楽の祭典については、父母以外の一般市民にも積極的に見せていくべきなのか、この辺りについて委員の意見はどうか。
- 垣内委員 まず、席の販売については、売るためのコスト等と想定される売り上げを比較せねばならない。
- 澤井議長 チケットは有料なのか
- 事務局 以前は、プログラムの中にプロによる演奏部分を入れ、有料としていた。しかし、子どもたち中心の音楽祭へということもあり、プロの演奏家を呼ばなくなり、以降、無料となった。子どもの演奏でお金をとれるものではないことと、教育委員会としては、できるだけ多くの方々に聞いてもらいたいという考えから、有料化という考えは持っていないと聞いている。広報についても、こういった考えから、無料で使用できるツールは積極的に取り入れているが、有料の広報媒体については使用していない。
- 林委員 父母以外の一般客はどれぐらいいるのか。
- 事務局 チケット不要で入場できるので、把握はできていないと思うが、会場にいた印象では、かなりの割合が出演者の家族であったように思われる。
- 高田委員 こういった、音楽のまちづくりの効果について、評価は難しいと思われるが、行政はどう考えるのか。
- 澤井議長 教育等の効果と同じだが、子どもたちの情緒が豊かになったかどうかをどう測るのかなど、なかなか評価の指標を作るのは難しい。

高田委員　やはり、文化活動をしていると、発表の場の確保が一番難しい。そういった発表・活動の場所の設定に力を入れて欲しい。

野畑委員　先ほどの音楽のまちづくり効果だが、川崎市の文化賞のうち、若手に送るアゼリア輝賞では、音楽関係の受賞者が多く出てきている。

事務局　昨年は、垣内さん、毛利さんと、2名とも音楽関連の受賞であった。垣内さんは世界的にも指揮者の登竜門といわれるブザンソン指揮者コンクールに優勝しての受賞だった。

澤井議長　これらの事業については、義務教育の事業であり、特定の生徒に着目してというよりは、全ての生徒に幅広く参加してもらうことを目的とすべきである。その中から才能のある生徒をどう発掘し伸ばしていくかは別の話だが、そのための裾野を作っていくことが大事かと思う。

渡辺委員　昔の日本人は、文化を知らず、海外に商談に出ても全く話ができなかった。音楽でも芸術でも、底辺を広げることが必要であり、これらを広げるには、良いものを聴くということが非常に重要である。そのため、この事業は、非常に有意義な事業だと思う。

澤井議長　それでは、この辺りで次の議題についてお願いします。

議題2　川崎市文化芸術振興計画の第2期計画策定について

事務局　＜川崎市文化芸術振興計画の第2期計画策定についての概要説明＞

岩森委員　文化振興をまちづくりに繋げて行くということだが、民間主導で行っていることも盛り込んでいく必要があるかと思う。また、計画の目標感をどこに置くのか、最終系や着地点が見えてこない印象である。

澤井議長　民間の活動を盛り込んでいくとの話が出たが、第1期振興計画を策定する際に同様の議論がなされた。しかし、民間の活動があまりにも多種多様に渡っており、行政において、とても拾いきれるものではない。また、純粋に民間が行っている活動に行政が方向付けすることはできないということで、計画の対象を、行政又は行政と民間が連携して行う文化事業に絞った経緯がある。

事務局　今後、市民説明会や市民アンケート等を経て策定していく中で、色々な意見を取り入れながら目標等を設定していきたい。また、まちづくりのイメージについても、もう少し明確な形で提示できればと思っている。

澤井議長　新たな発信手段とは？

事務局　公式 twitter や、携帯会社と提携した情報配信サービス、他都市との広報連携等、既成の広報方法に加え、新たな手段を構築中である。

垣内委員　通常、今までの計画に対しての主要な指標を示し、その検証により策定していくと思うが、市民アンケート等は行うのか。

事務局　夏に行い、その結果は計画に反映させていく予定である。

- 垣内委員 挙げられている成果や課題は、行政評価に基づいているものか。
- 事務局 施策評価等の内容はふまえている。また、各事業課からの課題も集約しているところである。
- 林委員 中身を見たところ、大きな方向転換は無く、基本的な部分は1期の継承ということによいか。
- 事務局 基本方針は、第1期計画を踏まえていく。
- 林委員 人材育成とあるが、純粹に民間の人たちが地道に行っている活動等への助成といった視点や取組みは考えないのか。
- 澤井議長 民間独自の部分については、多種多様であり、なかなか難しいのではないかと。それよりも、民間と官が同じ方向に向かって連携して進んでいく公民パートナーシップをもっと浸透させていくべきではないかと。
- 林委員 芸術活動は、基本的には市民が主体となって行っていくべきものである。金銭だけではなく、活動場所やそれらの情報窓口の整備など、そういった面でのバックアップが必要ではないか。市が担うのは難しいかも知れないが、欧米等では民間の団体が、地域の文化情報を把握し、窓口として機能している。
- 澤井議長 しんゆり映画祭のように、民主導のものに、官がのっかっている事業もある。場所貸しでも広報支援でも、公民連携の一つの形であり、こういった同じ方向を向いて取り組んでいく事例を増やしていくべきかと思う。
- 城谷委員 いくつかある。一つ目は、市が市民活動支援センターを通し、文化も含めた100近い市民団体の活動に対して補助を行っている。これらは、市民団体の活動を活発にするものであり、実績の中に明記して良いものと思う。
- 二つ目は、文化による被災地支援の実績。数多くの文化団体が、被災地への文化支援を行っており、これは実績に入れて欲しい。また、市民活動支援センターの被災地支援活動への補助にはずいぶん助けられたのだが、3月で終了してしまった。文化活動等による被災者への支援は、むしろ、これからが大事であり非常に残念である。
- 次は、文化施設の管理運営。ミュージアの天井材落下事故に対する反省をすべき。また、個別の施設になるがすくらむ21などは、中を改造して後部座席に野球場にあるような椅子を入れてしまっている。施設の指定管理化が進んでいるが、市の職員が行っていた頃は熱心に協力してくれたが、今は杓子定規な対応しかしてくれず、非常に使い勝手が悪くなった。
- 垣内委員 サービスオーガニゼーションについて。多種多様な市民の文化活動をサポートするための仕組みだが、おそらく、市がこれを掬い上げるのは無理がある。
- 事務局 市民団体の活動への助成は、市民活動センターが担っているが、文化に限るものではなく、活動に公益性が必要となる。
- 澤井議長 文化協会はどうか。

事務局 各区に文化協会があり、地域文化の活動についてサポートしている。また、市は、総合文化団体連絡会を通して各区の文化協会の活動に総額950万円の助成を行っている。

高田委員 先ほど、公民パートナーシップの話が出たが、これはどんな人が民の活動を担っているのか。

澤井議長 個人ではなく、NPOや任意団体など、市民が作った団体が市と対等の関係でパートナーシップを築くことで、どの自治体でも広がってきている。

城谷委員 市と一緒にやろうと持ちかけて、時間が経つとぱったりと手を引かれることがある。

澤井議長 補助金をもらうのが必ずしも団体にとって良いとは限らない。どこかで自立を考えることも必要

高田委員 やはり、地域の文化活動を広げるためには、活動する場所の確保等、色々困難な面がある。これらのマッチング機能の充実が非常に重要かと思う。

澤井議長 さいたま市では、マッチングファンド事業というものを実施している。これは、市民団体側が文化事業を行う際に、市に申請し、認められた場合は団体が負担する自己資金と同額を市が出す仕組みであり、運営はあくまで市民団体がメインで行う。行政が出すぎてもよくない。市民の文化活動への支援は、いろいろな形が考えられ、何か踏み出せばよいと思う。

垣内委員 文化施設の老朽化や長寿命化として、市に一般的な基準があるかと思うが、このあたりはどうなっているのか。

事務局 それぞれの施設ごとには長寿命化や中長期修繕計画があるが、そのとおりに財源面の問題等もあり、そのとおりにいけない面もある。限られた財源での優先順位や取捨選択等も必要であり、まずは次期計画において文化施設の位置づけを行い、個々の施設ごとにはではなく、施設全体で考えていかねばならないと考えている。

高田委員 民間では、減価償却を計算し、建てて何年で費用を回収しといった考えで建築するので、役所の施設建築にあたってのこのあたりの考え方がどうにもわからない。

渡邊委員 美術品なども、美術館等はまだしも、公園等に寄贈した彫刻等はたいてい野ざらしになっており、メンテナンスへの意識が薄いと感じる。

澤井議長 それでは、意見も出たようなので、最後の議題、平成25年度文化アセスメントの選定について、事務局からの説明をお願いします。

議題3 平成25年度文化アセスメントの選定について

事務局 文化芸術振興計画は、様々な施策分野で文化を活用することにより、施策の幅を広め、総合的に文化の振興をはかることを掲げている。これまでの4年間で、本掲・再掲を含め、7つの施策分野のうち5つの施策分野の事業についてアセス

メントを実施してきた。今年度は、2事業のうち1事業については、アセスメント未実施の分野、「文化と福祉・医療」から1事業選定するということを提案したい。

事務局 <各事業についての説明>

澤井議長 皆さんから異論が無ければ、「文化振興」から1事業、「文化と福祉・医療」から1事業選定ということで良いのではないかと。

澤井議長 それでは、異論も無いようなので、これらの事業の中から次回振興会議にて決定したい。

澤井議長 他に無いようであれば本日はこれで終了とする。